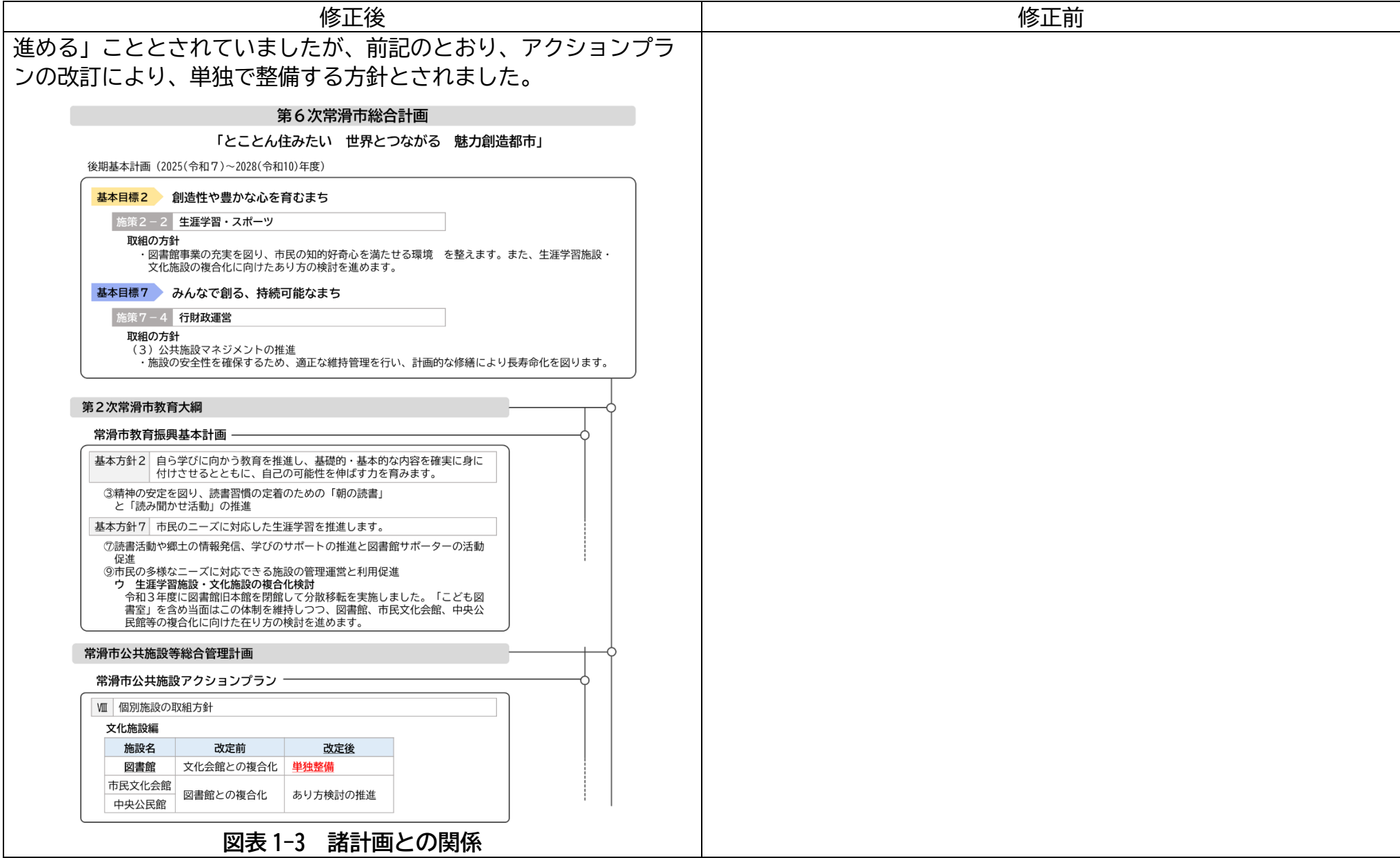


修正後	修正前
第1章 基本構想策定の趣旨と背景	第1章 基本構想策定の趣旨と背景
3 諸計画との関係	3 諸計画との関係
(1) 第6次常滑市総合計画 「第6次常滑市総合計画（以下「総合計画」という。）」は、2022(令和4)年度に市の最上位計画としてスタートし、<u>目指すまちの姿を「とことん住みたい 世界とつながる 魅力創造都市」と定め、これまで培ってきたまちづくりを尊重しつつ、新たな時代にふさわしい魅力的なまちづくりを、市民・地域・事業者と行政が一体となって進めています。</u> 総合計画では、目指すまちの姿の実現に向け、7つの「基本目標」を掲げており、図書館に関しては、基本目標2「創造性や豊かな心を育むまち」を実現するための施策2-2において「<u>図書館事業の充実を図り、市民の知的好奇心を満たせる環境を整えるとともに、生涯学習施設・文化施設のあり方の検討を進める方針</u>」としています。 また基本目標7「みんなで創る、持続可能なまち」を実現するための施策7-4「<u>行財政運営</u>」においては、<u>公共施設全体について、安全性を確保するため、適正な維持管理を行い、計画的な修繕により長寿命化を図るとともに、機能や配置の適正化、集約化、複合化を行うことで、施設量の適正化を図る公共施設マネジメントを推進することとしており、その具体的な計画として、「常滑市公共施設等総合管理計画」、またこれらの計画内容に沿った行動計画として位置付けられている「公共施設アクションプラン（以下「アクションプラン」という。）</u>」を策定していますが、図書館については、令和7年3月の公共施設アクションプランの改訂により、常滑市民文化会館（以下「文化	「第6次常滑市総合計画」は、2022(令和4)年度に市の最上位計画として策定されました。<u>将来都市像を「とことん住みたい 世界とつながる 魅力創造都市」を目指しています。</u> <u>その実現のための目標の一つとして「みんなで創る、持続可能なまち」を掲げ、公共施設全体について、安全性を確保するため、適正な維持管理を行い、計画的な修繕により長寿命化を図るとともに、機能や配置の適正化、集約化、複合化を行うことで、施設量の適正化を図る公共施設マネジメントを推進することとし、具体的な計画として、「常滑市公共施設等総合管理計画」、またこれらの計画内容に沿った行動計画として位置付けられている「公共施設アクションプラン」を策定しています。</u> 図書館については、令和7年3月の公共施設アクションプランの改訂により、常滑市民文化会館（以下「文化会館」という。）や公民館との複合化ではなく、単独で整備する方針とされました。 なお、本構想の策定は、中期期間(2025(令和7)年度～2034(令和16)年度)の取組みに位置付けられています。

修正後	修正前
会館」という。)や公民館との複合化ではなく、単独で整備する方針とされました。 なお、本構想の策定はアクションプランにおける、中期期間(2025(令和7)年度～2034(令和16)年度)の取組みに位置付けられています。 <u>(2)第2次常滑市教育大綱</u> <u>総合計画が示す常滑市の教育に関する目標や施策を達成するため、「第2次常滑市教育大綱(以下「大綱」という。)」が定められており、常滑市の教育における考え方や目指すべき将来像を「ふるさと常滑を愛し よりよい社会と人生の作り手を育む」という基本理念として示しています。</u> <u>大綱では、その理念を実現するため7つの「基本方針」を定めており、それを実現するための具体的な計画として、常滑市教育委員会が「常滑市教育振興基本計画(以下「基本計画」という。)」を定めています。</u> <u>基本計画では、基本方針2「自ら学びに向かう教育を推進し、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるとともに、自己の可能性を伸ばす力を育みます。」の中で、精神の安定を図り、読書週間を定着させるための施策として、全ての小中学校における「朝の読書」と、PTAや地域の有志、サークル団体等外部の協力を得て行う「読み聞かせ」活動を行うこととしています。</u> <u>また基本方針7「市民のニーズに対応した生涯学習を推進します。」の中では、常滑市立図書館における図書の充実や園文庫図書の充実、お話し会・ブックトーク・団体貸出などの実施による園児や児童生徒の読書活動の推進や、図書館の活性化のための図書館サポーターの活動促進を図ることとされています。なお、図書館については、「市民文化会館、中央公民館等の複合化に向けた在り方の検討を</u>	



図表 1-3 諸計画との関係

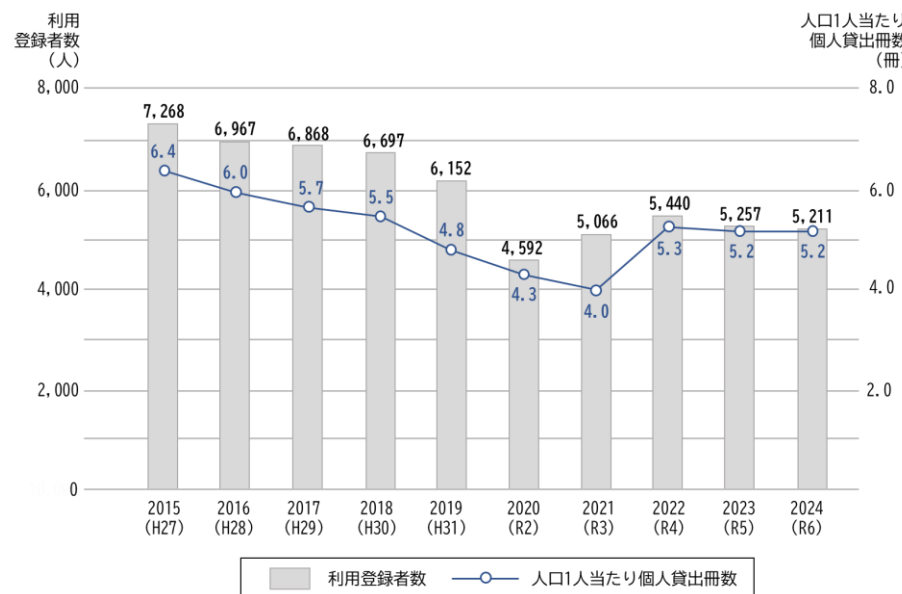
第2章 図書館を取り巻く現状と課題	第2章 図書館を取り巻く現状と課題
第1節 市の現状	第1節 市の現状
3 人口分布・人口推移	3 人口分布・人口推移
(1)人口分布 図表 2-6 人口分布（出典:RESAS 地域経済分析システム・500mメッシュ）	(1)人口分布 図表 2-6 人口分布（出典:RESAS 地域経済分析システム）
(4)域間流動 通勤者・通学者における1日の流出・流入状況をみると、通勤者が流入超過(3,750人)となっている一方で、通学者は流出超過(1,080人)となっています。<u>その理由の一つとして、2005（平成17）年の中部国際空港の開港以来、周辺の自治体より多くの空港従業員が市内に通勤していることがあげられ、市内に流入している通勤者15,376人のうち、約4割（約5800人）が空港従業員となります。</u> 図表 2-10 域間流動（数値出典:RESAS/地域経済分析システム）	通勤者・通学者における1日の流出・流入状況をみると、通勤者が流入超過（3,750人）となっている一方で、通学者は流出超過（1,080人）となっています。 図表 2-10 域間流動（数値出典:RESAS/地域経済分析システム）

修正後				修正前			
第3節 図書館の現状				第3節 図書館の現状			
2 施設の管理運営				2 施設の管理運営			
(4)経費				(4)経費			
(単位：千円)				(単位：千円)			
区分	2024(令和 6) 年度 当初予算額	2024(令和 6) 年度 決 算 額	2025(令和 7) 年度 当初予算額	区分	2024(令和 6) 年度 当初予算額	2024(令和 6) 年度 決 算 額	2025(令和 7) 年度 当初予算額
図書館費（A + B）	78,793	81,414	78,793	図書館費（A + B）	78,793	81,414	78,793
A 人件費	47,000	48,705	47,000	A 人件費	47,000	48,706	47,000
B 物件費（a + b）	31,793	32,709	31,793	B 物件費（a + b）	31,793	32,708	31,793
a 資料費	10,330	10,334	10,330	a 資料費	10,330	10,334	10,330
b その他	21,463	22,375	21,463	b その他	21,463	22,374	21,463
図表 2-16 運営経費				図表 2-16 運営経費			
(5)【参考】公共施設アクションプランにおける各公民館の取組方針 公共施設アクションプランにおいては、青海公民館については、2045（令和 27）年ごろに建物の耐用期間を迎えることから、アクションプランにおける後期期間（2035（令和 17）～2054（令和 36）年）に、小中学校や保育園など青海地区内の施設との複合化による一体的更新など複合化も含めた検討を行うこととしています。また同時期に整備された南陵公民館についても、同様で、南陵地区の小中学校や児童館・保育園、武道場などとの複合化による一体的更新など複合化も含めた検討を行うこととしています。							

修正後						修正前	
青海地区							
施設名称	建設年度	老朽度	中期 (2025-2034)		後期 (2035-2054)		
三和小学校	1973	87%	2026 長寿命化改修	複合化	複合化の検討 ※地区内施設の一体的更新	複合化	
三和児童館	1980	75%	2026 閉館・機能統合				
大野小学校	1971	90%	耐力度診断により	複合化			
大野児童センター	1982	72%	長寿命化改修/建替を検討				
青海中学校	1959	110%	耐力度診断により				
青海公民館	1983	70%	長寿命化改修/建替を検討				
南陵地区							
施設名称	建設年度	老朽度	中期 (2025-2034)		後期 (2035-2054)		
西浦北小学校	1997	47%	2026 長寿命化改修	複合化	複合化の検討 ※地区内施設の一体的更新 ※児童数の見込みにより、複式学級時点で中期に前倒し	複合化	
唐崎児童館	1980	75%	複合化（小学校へ）				
西浦南小学校	1972	88%	今後の児童数の見込みを				
西浦南児童館	1981	73%	踏まえてあり方を検討				
南陵中学校	1964	102%	耐力度診断により				
南陵武道館	1981	73%	長寿命化改修/建替を検討				
サザンアリーナ	1990	78%					
南陵公民館	1982	72%					
小鈴谷小学校	1970	92%					
小鈴谷児童館	1981	73%					
図表 4-7 公共施設アクションプラン							
4 図書館の利用状況						4 図書館の利用状況	
(2)利用登録者数と人口1人当たり個人貸出冊数の推移							
現図書館の利用登録者数（実人数）の推移を見ると、図書館の分散移転に左右されることなく 2015（平成 27）年度以降減少傾向にあり、読書離れが危惧されます。							
また人口 1 人当たりの個人貸出冊数は、分散移転により、こども図書室が設置されたことや青海本館・南陵分館の蔵書数が増えたことから、少し持ち直し横ばい傾向ではあるものの 2015（平成 27）年の 8 割程度にまで落ち込んでいます。							

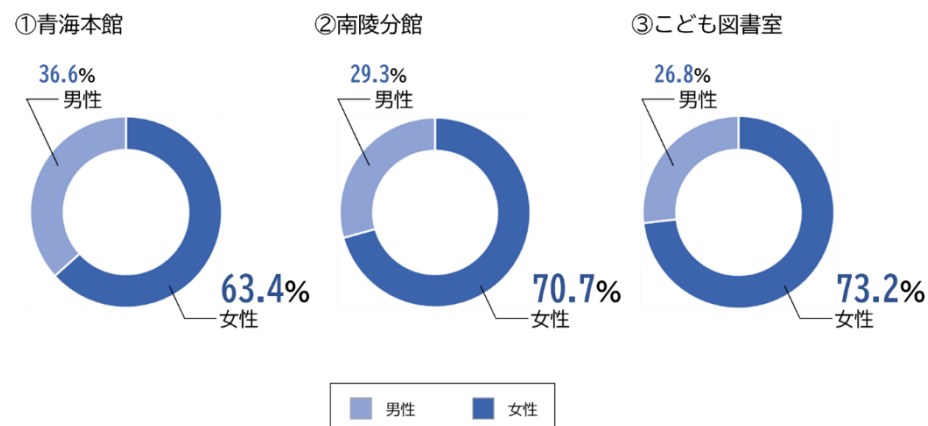
修正後

修正前



図表 4-14 利用登録者数と人口1人当たり個人貸出冊数

(5) 利用者の性別属性



図表 4-17 利用者数の性別による属性 - 2024（令和6）年度 -

修正後						修正前					
5 分散移転による影響											
分散移転により、青海本館及び南陵分館の個人貸出冊数は増加したものの、こども図書室の個人貸出冊数を含めても、新型コロナウイルス感染症による閉館の影響がない2018(平成30)年と比較すると、2022(令和4)年度は95.2%、2024(令和6)年度では93.6%と旧本館があった時と比べて減少したままです。											
区分	旧本館	青海	南陵	こども図書室	合計						
平成30年度	209,246冊	77,949冊	37,717冊	—	324,912冊						
令和4年度 (分散移転前比)	— —	127,835冊 164.0%	52,578冊 139.4%	128,946冊 —	309,359冊 95.2%						
令和6年度 (分散移転前比)	— —	144,130冊 184.9%	41,694冊 110.5%	118,470冊 —	304,294冊 93.6%						
図表 4-18 個人貸出冊数（館別）											
区分	一般書	YA	児童書	紙芝居							
平成30年度	147,630冊	3,335冊	149,893冊	3,545冊							
令和4年度 (分散移転前比)	73.4%	65.8%	117.3%	81.1%							
令和6年度 (分散移転前比)	73.3%	62.2%	113.8%	72.0%							
区分	雑誌	視聴覚資料	合計								
平成30年度	20,419冊	6,950冊	331,983冊								
令和4年度 (分散移転前比)	83.5%	84.2%	94.1%								
令和6年度 (分散移転前比)	79.1%	67.4%	91.7%								
図表 4-19 資料別貸出冊数											

修正後

また貸出冊数を資料別に見ると、児童書は、こども図書室が整備されたことで貸出冊数が分散移転前比 117.3%と増加しているものの、児童書以外は減少しています。中でも特に、ヤングアダルト（YA）の減少幅が大きいことがわかります。個人利用者数（実人数）を比較すると、13～15 歳（中学生世代）、16～18 歳（高校生世代）、19～22 歳（大学生世代）の利用が大きく減っていることから、駅から近かった本館がなくなったことで、学習室利用が文化会館や南陵公民館にシフトしたことによるものと推測されます。

区分	0－6歳	7－12歳	13－15歳	16－18歳	19－22歳
平成30年度	231人	1,075人	219人	110人	160人
令和4年度 (分散移転前比)	396人 171.4%	1,017人 94.6%	109人 49.8%	53人 48.2%	88人 55.0%
令和6年度 (分散移転前比)	342人 148.1%	927人 86.2%	102人 46.6%	41人 37.3%	56人 35.0%
(人口比率)	12.2%	26.2%	5.4%	2.3%	2.2%

区分	23－29歳	30－39歳	40－49歳	50－59歳	60歳超	合計
平成30年度	270人	1,081人	1,342人	611人	1,598人	6,697人
令和4年度 (分散移転前比)	180人 66.7%	986人 91.2%	946人 70.5%	466人 76.3%	1,199人 75.0%	5,440人 81.2%
令和6年度 (分散移転前比)	162人 60.0%	836人 77.3%	1,016人 75.7%	518人 84.8%	1,211人 75.8%	5,211人 77.8%
(人口比率)	3.5%	13.0%	12.1%	6.3%	6.6%	8.9%

図表 4-20 利用登録者数（年齢別）

2018（平成 30）年と 2022（令和 4）年度の比較を地区別に見ると、常滑地区を除き、地区ごとの減少率はそれほど大きな差はありません。常滑地区の減少幅が抑えられているのは、こども図書室が整備されたことにより、これまで図書館を利用していなかった子育て世代が増えたためと考えられます。

修正前

修正後								修正前							
区分	三和地区	大野地区	鬼崎地区	常滑地区	西浦地区	小鈴谷地区	市内合計								
平成30年度	1,013人	93人	1,538人	2,556人	649人	256人	6,105人								
令和4年度	776人	74人	1,212人	2,199人	499人	193人	4,953人								
(分散移転前比)	76.6%	79.6%	78.8%	86.0%	76.9%	75.4%	81.2%								
令和6年度	798人	86人	1,180人	1,931人	476人	172人	4,643人								
(分散移転前比)	78.8%	92.5%	76.7%	75.6%	73.3%	67.2%	76.1%								
(人口比率)	11.2%	6.3%	6.6%	8.7%	7.0%	5.4%	8.9%								
図表 4-21 利用登録者数（地区別）															